

◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例(男性, 30歳代)あります。推定感染地域はラオス・タイで, 推定感染経路は蚊からの感染です。本年の累積報告数は6例となっています。
- ・ **梅毒(早期顕症・Ⅱ期)**の報告が1例(女性, 30歳代)あります。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(性交・異性間)です。本年の累積報告数は2例となっています。
- ・ **風しん**の報告が10例(男性 7例(20歳代 1例, 30歳代 4例, 40歳代 1例, 50歳代 1例), 女性 3例(10歳未満, 20歳代, 50歳代))あります。本年の累積報告数は173例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約6.7倍となっています。全国の累積報告数も12, 863例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約5.4倍となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	2	3	38	36	32	5	2	118
女性	3	4	26	7	5	6	4	55
合計	5	7	64	43	37	11	6	173

- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は, 3.03(121例)で, 前週1.83(73例)に比べ約1.7倍増加しました。第24週(6月10日～6月16日)以降, 5週連続で増加しており, 本年で最も多くなっています。全国の定点当たり報告数も7.01(21927例)と前週 4.74(14916例)に比べ約1.5倍増加し, 過去5年平均値を大きく上回っています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は4.38(175例)で, 前週 2.28(91例)に比べ約1.9倍増加し, 過去5年平均値を大きく上回り, 本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 四類: **デング熱** 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: **梅毒(早期顕症・Ⅱ期)** 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類: **風しん(検査診断例 7例, 臨床診断例 3例)** 10例【1月以降の累積報告数 173例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① ヘルパンギーナ	4.38	175
	② 感染性胃腸炎	3.25	130
	③ 手足口病	3.03	121
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.85	34
	⑤ 突発性発しん	0.53	21
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

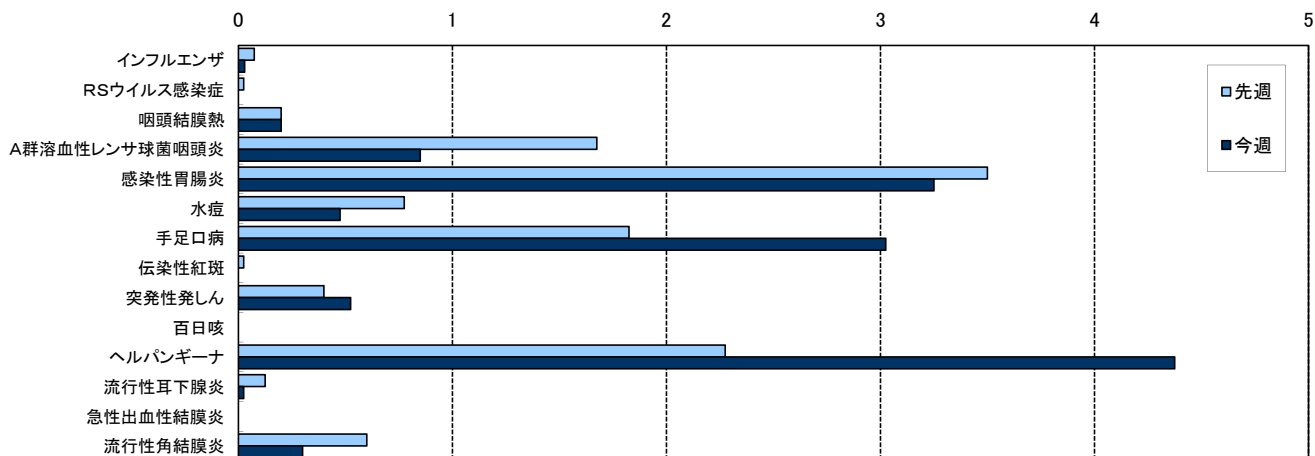
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

(注) 京都市のデータは, 平成25年7月18日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

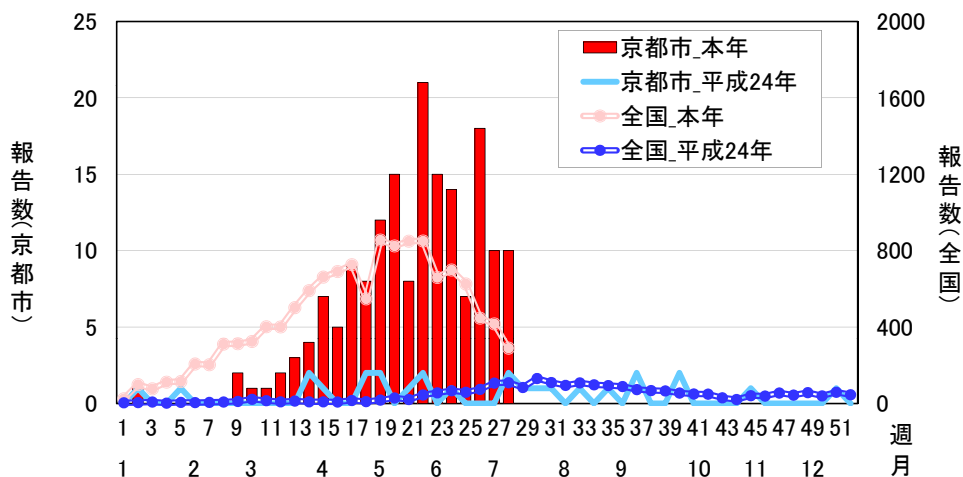
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第28週)と先週(第27週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

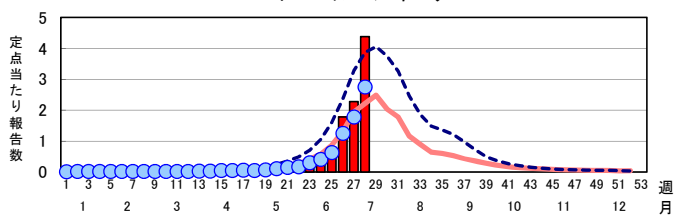
今週の報告数(累積報告数) 平成25年7月19日現在
京都市 10例 (173例)
京都府(京都市を除く) 7例 (95例)
近畿6府県 129例 (4748例)
全国 313例 (12863例)



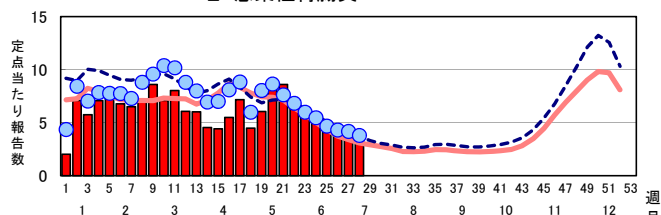
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

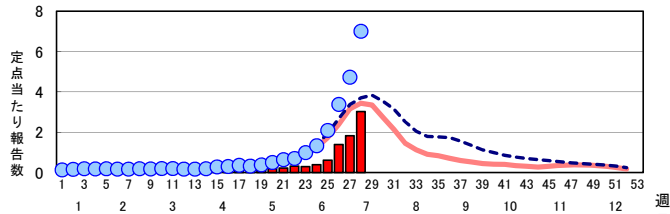
1 ヘルパンギーナ



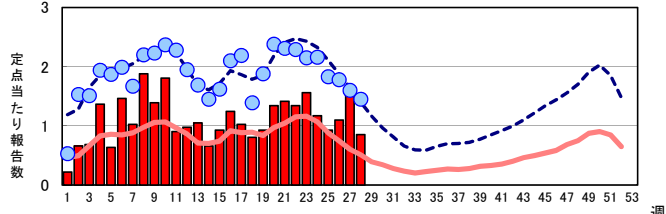
2 感染性胃腸炎



3 手足口病

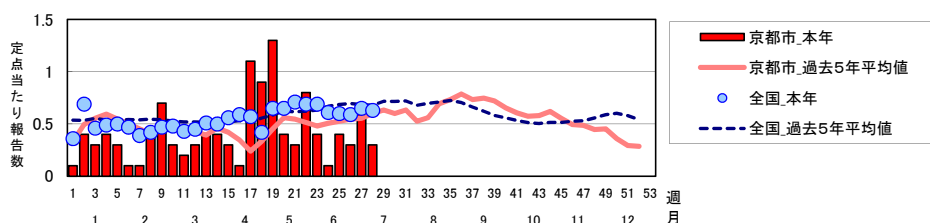


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第28週(7月8日～7月14日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

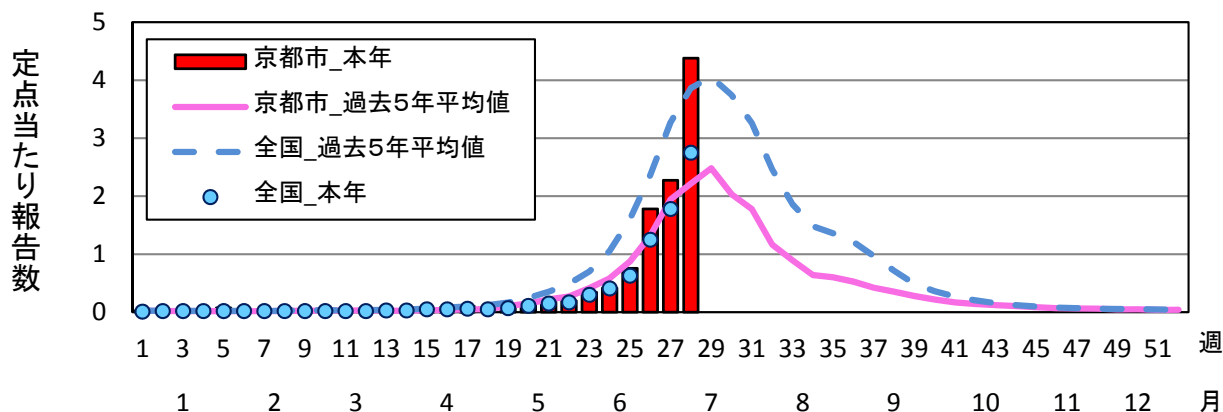
ヘルパンギーナの定点当たり報告数は4.38(175例)で、前週 2.28(91例)に比べ約1.9倍増加し、過去5年平均値を大きく上回り、本年で最も多くなっています。第19週(5月6日～5月19日)以降、10週連続で増加しています。全国も同様に増加しています。ヘルパンギーナは季節性が明確で、毎年7月から8月にかけて流行しますので、今後の動向にご注意ください。

行政区別にみると、11行政区中9行政区で前週より増加しており、南区(10.0)と伏見区(8.33)で警報開始基準値(*)『6.0』を超えています。

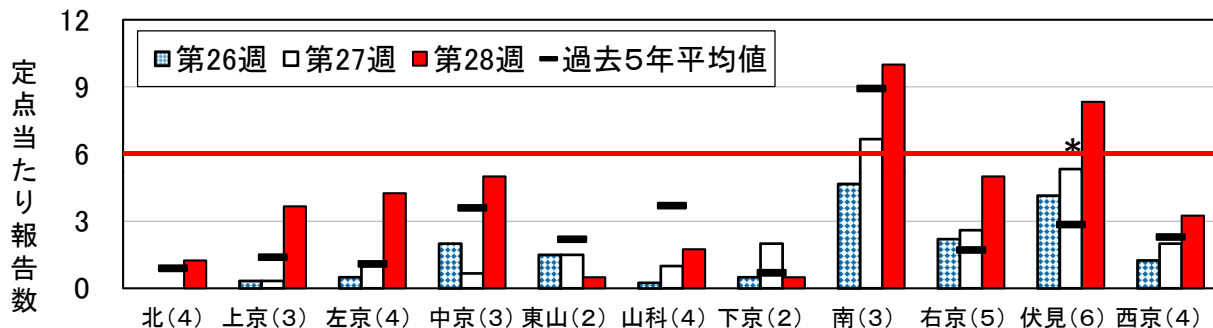
都道府県別では、47都道府県中43都道府県で前週より増加しており、高知県(6.87)、熊本県(6.20)、徳島県(6.09)の3県で警報開始基準値『6.0』を超えています。

(*)警報開始基準値とは、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを意味し、国立感染症研究所感染症情報センターがこれまでの感染症発生動向調査データから、基準値を定めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は行政区別の小児科定点医療機関数 * 第27週から伏見区の1定点が削除

都道府県別定点当たり報告数の推移

